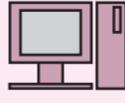


行政機関のオンライン手続きに必要です

住基カードの

公的個人認証サービス



問 市民課(☎235・4869)

最近、行政機関への申請・届出が、インターネットを通じてできるオンライン手続きが増えています。オンライン手続きをするためには、あらかじめ「公的個人認証サービス注」を受けることが必要です。
▷発行手数料 500円 ▷対象 市内に住民票があり、市発行の住基カードをお持ちの方。

注公的個人認証サービス…住民基本台帳カード(住基カード)に、オンライン上での本人確認とデータの改ざん防止のため、電子証明書というデータを記録する手続きのこと。電子証明書の有効期間は発行の日から3年間。期間が経過した場合は、その都度更新の手続きが必要です。※詳しい内容は、市ホームページにも掲載。

市立郷土資料館海老名市温故館は、耐震診断の結果、大規模地震には耐えられない可能性がある」と判断され

文化会館旧談話室で

展示します 1月17日から

郷土資料の温故館の



ため、市教育委員会では、同館を昨年9月1日から休館としています。このたび、同館で展示していた郷土資料を次のとおり展示します。
▽場所 文化会館・旧談話室

▽期間・時間 1月17日 9時から17時(休館)
▽なお、旧村役場でもあるこの建物の扱いについては、現在、多くの市民の方のご意見をいただいて、将来に禍根を残さないためにも、慎重に判断していきたいと考えています。
問 文化財課(☎235・4925)

今福薬医門公園

一部を公開



教育委員会では、今福薬医門公園(中新田)の整備を順次進めており、平成20年度の全面オープンを目指しています。このたび、今年度分の整備が終了しましたので、来年度工事着手までの間、市民のみなさんに、公開することになりました。
期間中は、江戸末期に建てられた薬医門と3階建ての蔵のほか、屋敷林や珍しい野草なども見ることができ、ぜひご来場ください。
▽所在地 中新田1-1495-5(県立海老名高等学校西側付近目標)
▽駐車場はありません。
▽公開期間・時間 2月1日(日)8月31日(金)の毎日10時~16時30分。
問 文化財課(☎235・4925)

市では、コミュニティバス専用回数券の増刷に伴い、回数券に広告を募集します。この広告は、市と事業者が協力してコミュニティバスを運行する方から、掲載します。
▽規格 3センチ×5センチ
▽募集枠 1枠
▽発色



回数券の有料広告を募集

行部数 1000部
▽発行予定日 3月ごろ(現在の回数券完売後)
▽掲載料 15万円 ※回数券の優待分(150円券×1000枚)に活用
▽掲載決定に応募多数の場合は、総合的に判断して決定
▽掲載できないもの ①政治または宗教に関するもの ②公共の秩序または善良の風俗に

新シリーズ

「自助・共助・公助」と「市防災計画」



②市の準備状況と自分でできる対策

問 生活安全課(☎235・4790)

市の準備状況

大規模地震災害に備えて、市で準備している主な備蓄物品は、下表のとおりです(平成18年11月現在)。

市では、これらの物品を、市内46カ所51の備蓄倉庫内に備蓄しています。このうち、非常食は、市が最も被害を受けると想定される「南関東地震」の想定避難者数1万4000人に

対応するためのものです。自分でできる対策

自助のため、共助のための

市が備蓄している主な物品

Table with 4 columns: Item Name, Quantity, Item Name, Quantity. Lists items like rice, instant noodles, and blankets.

対策は、以下のとおりです。
●「自助」のために
①準備したい物
②3日分の食糧…常備薬等、個人的な特殊なものに

人権擁護委員に二見氏を再任

人権擁護委員として、二見隆江氏(ふたみ たかえ、本郷在住、49歳)が再任されました。任期は平成19年1月1日から21年12月31日までの3年間です。
人権擁護委員は、人権意識が高く、広く社会の実情に通じ、人権擁護について理解のある方を市町村長が推薦し、法務大臣が委嘱します。市内には、8人の人権擁護委員がいますので、お気軽にご相談ください。
問 広聴相談課(☎235・4567)

メモ・阪神大震災の教訓

- 死者のうち、腹部や胸部が圧迫されて呼吸できない「窒息死」は54%、「圧死」は12%。窒息死は30分以内の救出で助かったかもしれない
○家にいた人の約1割は何かの下敷きになり動けなかった
○2階建ての住宅では、1階にいた人の方が、けがや閉じ込めの確率が高い
○神戸市長田区では救助隊員の1人当たりの住民は約1400人。同時多発型災害では、住民の力に頼りしかない。救助活動に参加した住民は32%(海老名市では、当直勤務する専属の救助隊員は5人)
○救助はスピードがすべて。3日たてば生存者はいないと考えるべき
○消防は、初動時消火活動を優先する

②実施したい対策
①家庭内で防災会議を開き、大震災時の安全対策や家族間の安否確認の方法などを話し合う…大震災後、家でなければ避難所にいることを原則としておく、近所に地震で崩れそうな「がけ地」があれば、崩れた場合の対策を考える、など
②家具等の転倒防止
③家の耐震補強

④ブロック塀・石塀の補強
●「共助」のために
①地域で行う防災訓練への参加
②自主防災組織の強化
③地域コミュニティの構築(震災時、隣近所で助け合いのできる関係を)